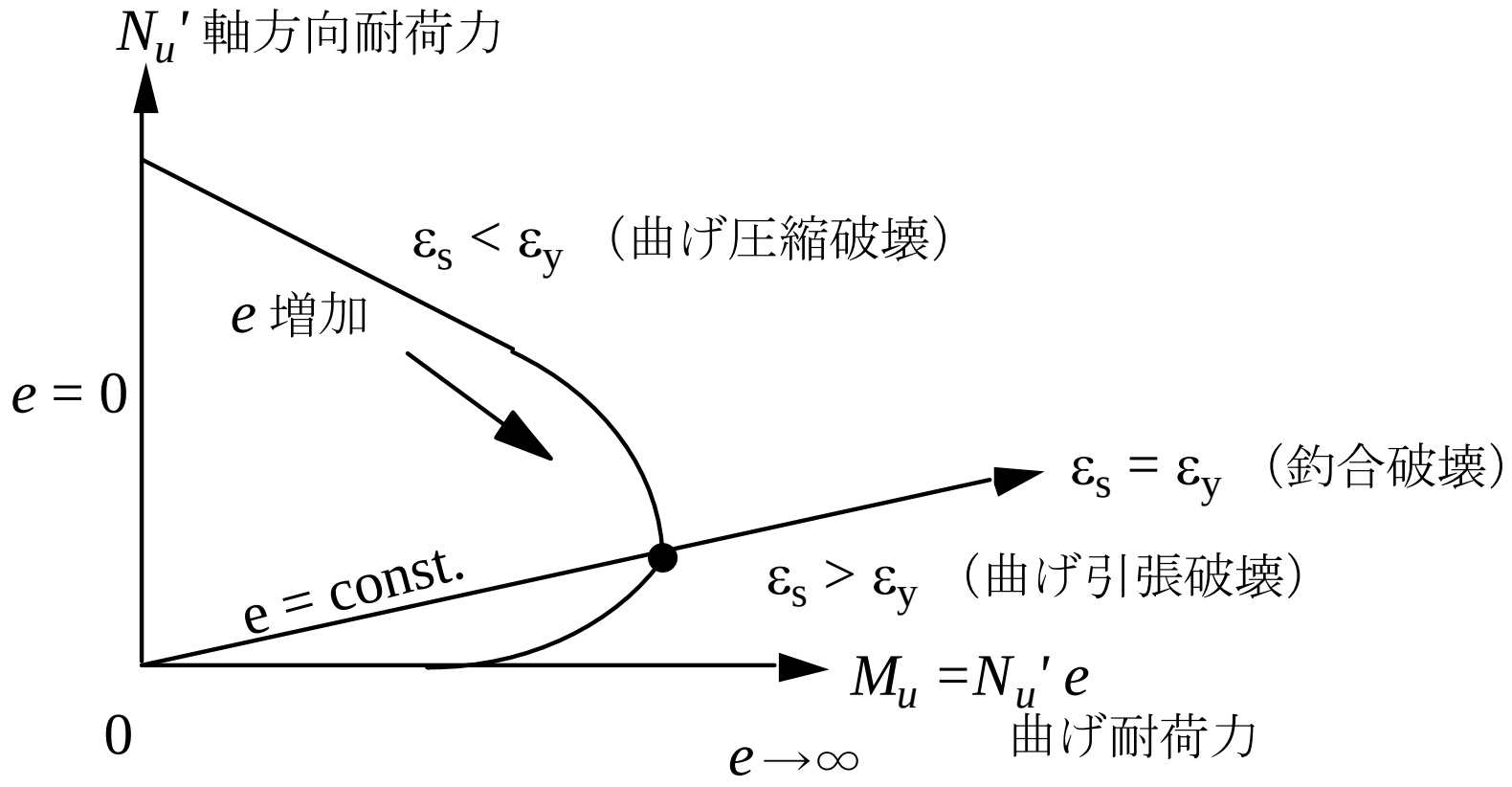
相互作用図（Interaction Diagram）

断面の図心位置以外に軸圧縮力が作用すると、断面は曲げと軸圧縮力を受ける。

この際の耐荷力は、これまでに説明した方法で得られる。そして、これらを連続的に示したものを曲げと軸圧縮力が同時に作用した場合の耐荷力の「相互作用図（interaction diagram）」と呼ぶ。



○偏心量 e が増加すると、→　軸方向耐荷力 N'_u は低下していく。

○引張鉄筋のひずみは、偏心量 e が小さいときは、つねに圧縮を示すが、e が大きくなると次第に引張を示すようになる。

○破壊時（コンクリートの圧縮縁ひずみが破壊ひずみ ε'_{cu} となる際）に、丁度、引張鉄筋が降伏する場合を「釣合破壊」という。

○釣合破壊点までは、N' の増加とともに、曲げ破壊モーメント M_u が増加していくが、これを超えて e が減少すると、M_u が低下していく。

○原点を通る直線は「偏心量一定」（$e = const.$）の関係を示す。釣合破壊時の偏心量よりも e が小さいときは「曲げ圧縮破壊」となり、e が大きいとき「曲げ引張破壊」となる。